

第4回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成28年2月3日(水)に、15名が参加して「第4回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。

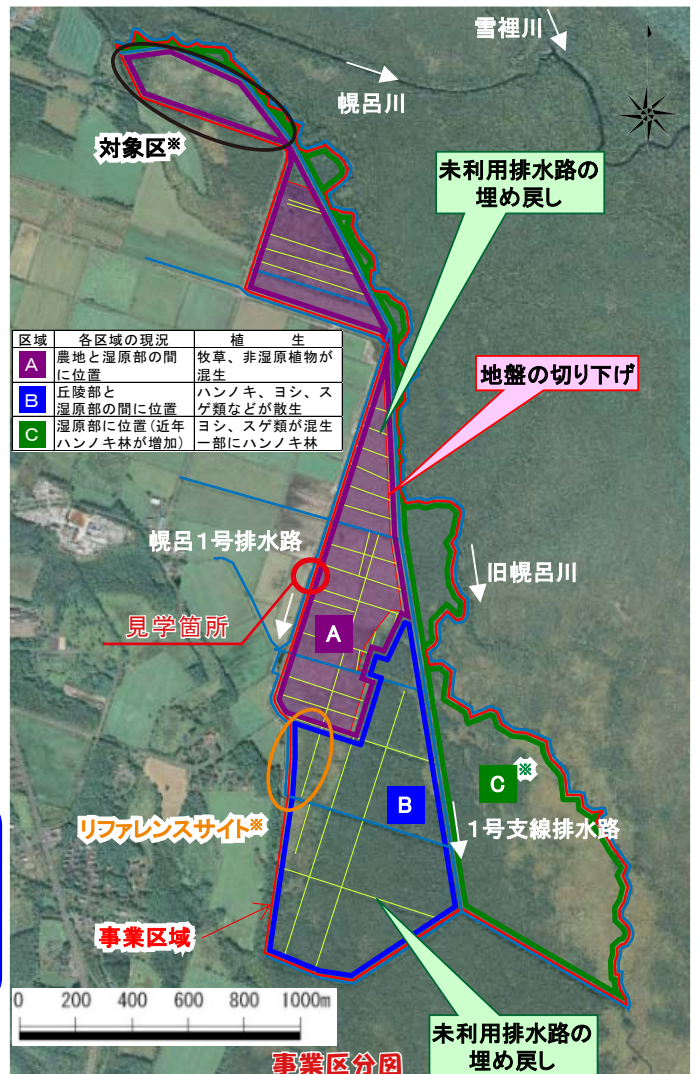
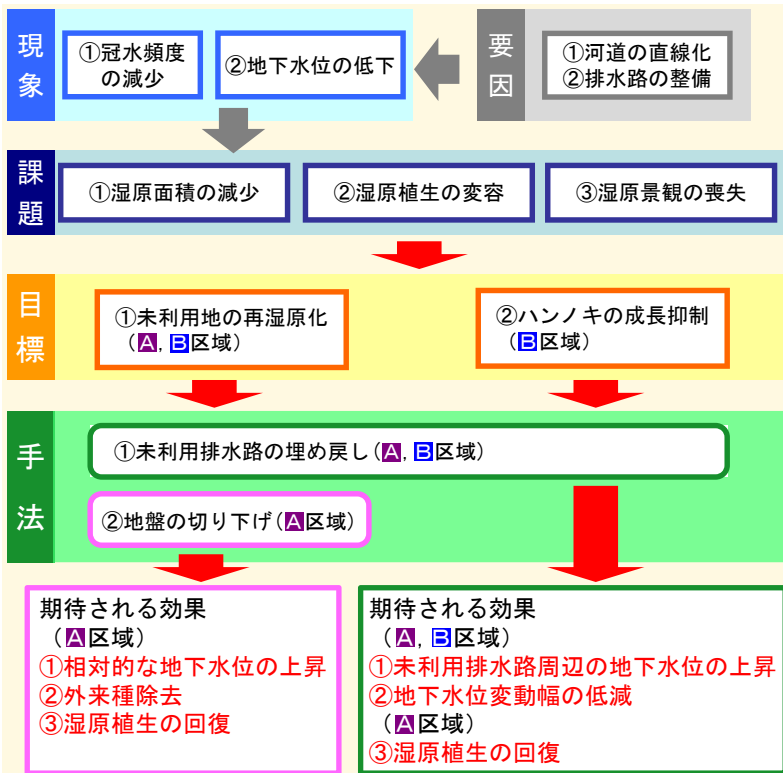
今回は、鶴居村幌呂での「自然再生事業現場見学」と釧路河川事務所での「観察活動報告会、意見交換会」を行いました。

「幌呂地区湿原再生」について

幌呂地区では、1970～85年にかけて幌呂川の直線化や国営農地開発事業が行われ、湿原植生(ヨシ・スゲ類)はハンノキ林へ変容しました。

2012年から釧路開発建設部では未利用農地について、周辺の営農活動へ影響が無い範囲で下記の取組を実施しています。

●事業の概要



※対象区: 事業を実施しない場合の状況を確認するための区域
 ※リファレンスサイト: 事業の目標となる環境条件を有した区域
 ※C区域: A・B区域の事業効果・影響を検証したうえで、事業の実施内容を検討する区域

工事担当者から下記の現場説明がありました。

- 元々湿原のため、地盤が凍結する冬期間しか工事ができない。
- 現場付近にタンチョウが飛来するので、トラックは20km/h以下で走行する。また、重機での作業待ち時間には、排気ガスを排出しないようにエンジンを切るなどの環境に配慮をしている。

周辺環境への配慮
 生態系被害防止外来種である「オオアワダチソウ」を除去し、拡散を防止しています。



観察活動報告会

午後からは昨年に引き続き、釧路河川事務所で「観察活動報告会」を行いました。今回は、応募していただいた4組が日頃から行っている観察活動などをわかりやすくまとめ、報告を行いましたので、1組ずつ紹介します。なお、参加した皆さんは、興味深く発表を聞き、資料に目を通していました。

●H27-025松田 國宏さん、H27-017基野 邦子さんの発表

『釧路川・釧路湿原についてPart3』と題しまして、昨年に引き続き、新聞記事を中心に紹介しながら新しい情報をわかりやすくまとめあげて、報告していただきました。

平成26年に行われた「屈斜路湖」の漁業権の取得表明、「釧路湿原自然再生協議会」が釧路湿原自然再生事業 茅沼地区旧川復元で「土木学会環境賞」を受賞したことや、「湿原の価値を生かす」釧路市合併10周年のシンポジウムについて説明しました。

また、摩周を追加した「阿寒摩周国立公園」に改称する動き、釧路根室管内の7つの活火山・硫黄山など「釧路川・釧路湿原」を中心に幅広く紹介してくれました。



新聞記事を紹介



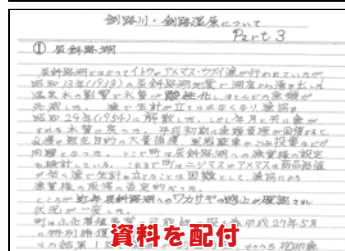
賞状を紹介



発表を聞く参加者



発表する松田氏と基野氏



資料を配付

●H27-059紀國 住枝さんの発表

『川レンジャー学習会に関して（今までの参加の取りまとめ）』と題しまして、撮影した写真を中心に学習会や個人の活動について報告していただきました。

第2回学習会では、水質調査や自然再生事業現場見学した際に撮影した写真を紹介し、川の汚れの原因など学んだことや移動中の足下に生息していた植物について紹介しました。

また、個人の活動として、川レンジャーに入ってから生物に関心を持ち、撮影した写真で、お互いに挨拶をする「オオハクチョウの生態」、年間60~70種飛来する「仁々志別川と新釧路川の野鳥」や新聞に投稿し掲載された「ミンク」の生態についてなど、長年観察している仁々志別川を中心に紹介してくれました。



発表する紀國氏



ゴイサギ



ダイサギ



コサギ

●H27-046菊地 利長さんの発表

『オオハンゴンソウ防除（途中報告）・エゾフクロウの四季』と題しまして、撮影した写真を中心に紹介しながら、個人の活動について報告していただきました。

「オオハンゴンソウの防除」は、右表の日程で学習会も含め計7回実施しており、その度に新芽が発芽していて、生命力の強さに驚かされるそうです。また、駆除に使用する道具についても紹介し、来年度も継続して防除していくと報告していました。なお、特定外来生物だと知らずに植えている人にはパンフレットを配付し、普及啓発を行っているそうです。

「エゾフクロウ」は、2011年から観察しており、撮影した写真で生態について報告してくれました。エゾフクロウのヒナや音も無くネズミを捕り啜った場面、うろ（樹洞）に営巣する場面など、とても貴重な写真を紹介してくれました。

	日付	防除実施状況
1	H28. 6. 22	第1回学習会
2	H28. 8. 11	個人
3	H28. 8. 21	個人
4	H28. 9. 15	個人
5	H28. 10. 16	第3回学習会
6	H28. 10. 21	個人
7	H28. 12. 16	個人



発表する菊地氏



再び出た新芽(12月16日)



使用した道具を紹介



目を開いたエゾフクロウ



エゾフクロウのつがい

●H27-034杉山 伸一さんの発表

『釧路川流域の昆虫相について「ヘイケボタル」』と題しまして、標本や発光器具を紹介しながら、報告していただきました。湿原には、ヘイケボタルとオバボタル（幼虫のみ発光）が生息しているそうです。

ヘイケボタルは、湿原のいたる所に生息しており、弟子屈町の和琴半島湖畔キャンプ場などにも生息しています。その一生は卵から成虫になるまでが約1年間で、幼虫はモノアラガイやマルタニシなどの貝類を捕食し、成虫になってから10～15日間で交尾出産を終え、生涯を閉じます。ヘイケボタルの発光は、オスが1秒間に3～4回の早い点滅に対し、メスは1秒間に1回ほどのゆっくりとした点滅をします。ただし、オスが近づくと点滅が早くなるそうで、発光器具を使った実演などで、ヘイケボタルについてわかりやすく紹介してくれました。



発表する杉山氏



ホタルの一生を紹介



ヘイケボタルの標本



モノアラガイの標本

●意見交換会

観察活動報告会後に参加者から一人ずつ意見や感想をいただきましたので、抜粋した内容を以下で紹介します。



意見交換会の様子

- 現地に行くことが一番大事だと思っていますが、毎回出席できないことが残念です。学習会に参加すると勉強になるので、これからも続けて欲しいです。
- 今日はホタルのことがよく分かり、大変勉強になりました。小さい時にたくさん採って家の中に放したことがあります。今考えると、とても残酷なことをしたと思います。
- 新釧路川と仁々志別川には、かなりの野鳥がいるのですが、2、3年くらい前から少なくなってしまったので、なぜなのか？という疑問があります。
- 皆さんの発表を聞かせていただき、自分の時間を有効に使いながら、自然との付き合いをしていると、心打たれました。
- 特定外来生物のセイヨウオオマルハナバチを3年くらい前から駆除していますが、しぶといです。毎年、1回くらい刺されていますが、今年も駆除を頑張りたいと思います。
- 学習会に参加して、湿原、あるいは自然に対する見目がちょっと変わってきたのを感じています。また、皆さんが大変勉強され、発表されていたので、非常に驚きました。これからも、まだまだ勉強しなければと思っています。
- 学習会では自然に接することが多いです。昨年2回、外来種を根から引き抜いたのですが、湿原にはずいぶんと広範囲に広がっていることを強く感じました。これからも駆除の機会があれば参加したいと思います。
- 冬の間にオオハンゴンソウを植えている家に、環境省のパンフレットを配付しようと思っています。パンフレットによって、春までに何かを考えてくれそうな気がしますので、頑張ります。

最後に事務局から、「このような発表の場は自然が好きの方が集まり、活動していく中でも各々の得意分野が違うので、発表を聞くことによって励みにし、自分の勉強や研究になるかと思っています。また、来年度の学習会については、特定外来生物の防除は継続する予定で、自分の勉強になるような良い方向の内容を考えていければと思っています。」と締めくくり、今年度の学習会を終了しました。

観察活動の報告

釧路湿原川レンジャーの皆さんから寄せられた観察報告を紹介します。

今回は、強風による街路樹の倒木や河川敷などの不法投棄とゴミの回収、オオハクチョウの飛来などの環境に関係することや学習会の感想など、様々な報告がありました。

今後も紹介しますので、皆さんからの報告をお待ちしております。

観察活動で報告された内容とその対応 (H27年10月～H28年3月)

報告日	報告内容	対応
H27.10.10	歩道に街路樹の倒木	管理者である釧路市に連絡
H27.12.23	ゴミの不法投棄	管理者である北海道に連絡
H28.1.15	動物報告:オオハクチョウ飛来	貴重な環境情報として取り扱う
H28.1.20	動物報告:オオハクチョウ飛来	貴重な環境情報として取り扱う
H28.2.5	植物の問い合わせ	事務局で調べて報告
H28.2.5	学習会の感想など	貴重な情報として取り扱う
H28.3.11	ゴミの不法投棄を回収	釧路河川事務所処理



強風による倒木



便座の不法投棄



オオハクチョウの飛来



オオハクチョウの飛来

